

実施日：11 月 25 日（5 校時）	
領 域：道徳（特別の教科 道徳）	
取組名：あいてのことを 考えて	
対 象：2 年生	実施場所：教室
ア ねらい （道徳） 困っている子を描いた 2 つの場面を通して、相手の気持ちに寄り添った言葉かけや行動の大切さに気付き、相手のことを考え、優しく接しようとする判断力を育てる。 （人権） 「ほほえみ」の人権推進項目（3－（2）－ア）人間関係の活性化 人権尊重の理念に基づいて、人と人とが豊かに共生していくために必要な資質や技能の育成を図る。表情や行動から相手の思いを推測し、相手の気持ちに寄り添った言葉かけや行動を考える力を養う。	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 ※詳細は学習指導案参照 1. 導入（5 分） これまでの学校生活で、困っている子を見たことがあるかを思い出す。 ◇これまでの生活を思い起こさせ、困っている子がいるのは身近な出来事であることに気付かせる。 2. 展開前段（20 分） 場面 1（砂のお城がこわれた）を掲示し、誰が困っているのかを考える。 ◇お城を壊された「みんな」が困っており、「こうきくん」に腹を立てても仕方のない状況であることに注目させる。同時に、「こうきくん」もみんなに申し訳ない気持ちで困っていることにも気づかせる。 自分がお城を壊された「みんな」の一人として、「こうきくん」のことをどう思うか、自分ならどのような行動をとるのか考える。 ◇「こうきくん」に怒る気持ちがあっても、自分なら「こうきくん」にどのような行動をとるのか、なぜそうするのかを考えさせる。 3. 展開後段（13 分） 場面 2 の絵（一人で暗い表情をする女の子がいる）を掲示し、女の子がどんなことで困っているか考え、どうすればよいか考えさせる。 ◇女の子の表情から、自分のこれまでの経験をもとに、どのような状況なのか想像し、何をするか、なぜそうするのかを考えさせる。 4. 終末（7 分） 板書で授業を振り返り、困っている子がいた時、どうするのか、なぜそうするのかを考えてワー	

クシートにまとめる。 ◇困っているかもしれない子を前に、まず、どうするのか？（行動）なぜそうするのか？（理由）という順番でまとめさせることで、相手の気持ちに寄り添う大切さに気付かせる。
ウ 連携先：全職員、家庭
エ 連携にむけての取組 ・研究授業として全職員で参観、事後研修会を行う。 ・学級便りを通じて、今回の授業の概要を紹介する。
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 ・授業前に授業の流れとねらいについて、授業者から職員に説明を行う。 ・事後研修会では、少人数グループで協議を行い、グループで出た意見を全体で交流した。協議の柱は以下の２点。 ○本時のねらい（道徳、人権の両方）に迫れていたか。 ○手立てはねらいに即したものであったか。
カ 評価の方法 ・ワークシート
キ 成果 教科書をそのまま使うのではなく、挿絵のみ使用して状況説明も簡略化することで、多面的多角的な考えを持たせることに取り組んだ。教材文の提示の仕方で、児童の思考の広がり大きく違いが出てくることが分かった。 今年度から、道徳の授業の中で人権教育としてのねらいも設定した授業に取り組んでいる。道徳のねらいを達成しつつ、人権教育としてのねらいを達成するという授業をどのように計画し、実施していくのかを全職員で研修するいい機会となった。
ク 課題 「あなたならどうしますか」という問いに対する意見がたくさん出てきたことはよかった。しかし、その行動があいてのことを考えていたのか、もう少し押さえておきたかった。 様々な意見が出てきたことはよかった。それらの意見の共通点を板書でまとめていけば、さらに分かりやすくてよかった。